



みなみとしょかんだより

二〇二二年冬号

日本側の雪が多い地域では、「カメムシが大量発生する年は、大雪」と言い伝えられているそうです。（『はれるんのお天気教室』東京堂出版より）

今年、カメムシが多かったのでしょうか？雪の日が多いですね。

雪が降って寒い日は、家の中で読書を楽しみませんか？

そこで、「雪の日」にオススメの本を紹介しします。

低学年向き

中学年向き

高学年向き



『ゆきがくれた おくりもの』

リチャード・カーティス/文
レベッカ・コップ/絵 ポプラ社

おおゆきがふった つぎのあさ、がっこうは、おやすみに。そのことを しらずにやってきたダニーとトラッパーせんせいは、ふたりだけのじゅぎょうをすることになった。



『ゆきのうえ ゆきのした』 ケイト・メスナー/文 クリストファー・サイラス・ニール/絵

福音館書店



ゆきのうえでは、スキーをしてあそぶ私たち。その時、ゆきのしたでは…。ふゆの間、いきものたちはどうしているのだろう。

『きっちり・しとーるさん』

おの りえん/作・絵
こぐま社

図書館ではたらく「しとーる」さん。時間にあいさつ、かたづけ、どんな事にもきっちりしているの、みんなからかわがられていた。ある雪の夜、図書館のにわで、ノミだらけのよごれた子ねこに出会った「しとーる」さんは、子ねこを追い出そうとするのだが…。



『白いのはらの こどもたち』

たかどの ほうこ/作 理論社



のはらの好きな「のはらおばさん」と、冬のはらへさんぽに出かけたのんちゃん。雪の上には、キツネやタヌキのあしあとが、ナナカマドの木には赤い実が。

『ラストで君は「まさか！」と言う』

一冬の物語一』

PHP研究所/編 PHP研究所



不思議な話を集めたショートストーリー集。

あなたもラストで「まさか！」と言ってしまいかも！

『中谷宇吉郎 【雪と氷の探求者】』

清水 洋美 /文 野見山 響子/絵 汐文社

上空の様子を知らせる空からの手紙。それは「雪の結晶」という暗号である。その暗号を読みとくために、マイナス30度の部屋の中で顕微鏡をのぞき続けた中谷宇吉郎。彼は、世界で初めて雪の結晶を人工的に作り出すことに成功した。



休館日：毎週火曜日（祝日の場合は翌平日）

年末年始・図書特別整理期間

開館時間：平日 午前9時30分～午後7時まで

（児童だけの利用は午後5時まで）

土日祝日 午前9時30分～午後5時まで

住所/電話：南区東九条南山主町5-5 / 075-691-6888

最寄駅：地下鉄「九条」/市バス「大石橋」/J R・近鉄電車「京都」

